

英国十八世紀の農耕詩を読む～「脱線」を中心として

海 老 澤 豊

1697年に発表されたドライデンの英訳とアディソンの「農耕詩論」を契機として、英国の詩人はウェルギリウスの『農耕詩』の模倣作を次々と発表するに至った。アディソンは本来教訓詩である農耕詩には「快く適切な脱線」を取り入れて、読者が退屈しないように留意すべきだと主張する。英国風農耕詩の嚆矢となったフィリップスの『林檎酒』（1708）にも「時に詩神は堅実な助言から協道にそれて」とあり、実際この作品には教訓よりも脱線のほうが多い。ウォートンも「教訓詩論」（1759）において「様々な種類の脱線」や「感情に訴える描写」があるからこそ『農耕詩』は読み継がれてきたと説く。エイキンは「ある技術を教えることを唯一の目的として教訓詩を書いた者がいないのは自明である」（1796）と述べて、農耕詩の教訓性よりも詩的技術や想像力を強調する。このように英国風農耕詩は教訓から脱線（描写や物語）へと次第に軸足を移し、ロマン派の長編詩へとつながっていくのである。

参考文献

Addison, Joseph. "An Essay on the Georgics." *The Works of Virgil in English* 1697.

- vol.V. *The Works of John Dryden*. eds. William Frost and Vinton A. Dearing. Berkeley and Los Angeles: University Press of California, 1987.
- Aikin, John. "On Dr. Armstrong's Poem on The Art of Preserving Health." *The Art of Preserving Health by John Armstrong, M. D.* London: T. Cadell, 1796.
- Dryden, John. *The Works of Virgil in English 1697. vol.V, The Works of John Dryden*. eds. William Frost and Vinton A. Dearing. Berkeley and Los Angeles: University Press of California, 1987.
- Philips, John. *Cyder. A Poem in Two Books*. eds. John Goodridge and J. C. Pellicer. Cheltenham: The Cyder Press, 2001.
- Warton, Joseph. "Reflections on Didactic Poetry." *The Works of Virgil*. trans. Christopher Pitt and Joseph Warton. 4 vols. London: R. Dodsley, 1753. 1: 393-440.